

告 辞

本日、東京農工大学大学院連合農学研究科博士課程を修了し、晴れて博士号を授与される皆さん、おめでとうございます。本年は、生物生産科学専攻 14 名、応用生命科学専攻 8 名、環境資源共生科学専攻 6 名、農業環境工学専攻 4 名、農林共生社会科学専攻 4 名、論文博士 4 名、計 40 名が無事巣立っていくこととなりました。本学教職員を代表し、心よりお祝い申し上げます。こうして皆さんの晴ればれとした明るい顔を見ていると、我々教職員の思いも報われたように感じています。そしてまた改めて、今まで皆さんが学業に励んできた間、常に陰になり日向になり皆さんを支援してこられたご家族、ご友人その他関係者の方々にも深く敬意を表し、この晴れの日の喜びを共に分かち合いたいと思います。

この 3 年間、皆さんはこの大学で様々な経験をされたことでしょう。それぞれ高い志と夢を抱いてこの科学技術研究の険しい道に足を踏み入れ、その奥深さに触れる感動と喜びを大いに感じる一方で、挫折や失敗も数多く体験し、常に研鑽と努力の日々だったのではないのでしょうか。楽しかったこと、辛かったこと、それらすべての経験のひとつひとつが、これから皆さんが各々の進路で新たな知を生み出すイノベーションの国際的先導者として活躍するにあたっての力の源となります。皆さんが学んだこの東京農工大学は機動力と先進性を強みとして創基 140 周年という長い歴史と伝統を引き継ぎ常に柔軟に進化してきた大学であり、特に連合農学研究科は茨城大学及び宇都宮大学と大学の枠組みを超えて連携し、各々の研究の特性を活かし、また補いつつ、より洗練された実効性に富んだ最前線の農学研究へと発展させるために創設された非常に特色ある大学院です。そのような研究科で鍛えられて獲得した知識や技術、そして経験に対して、まずは皆さん自信を持っていただきたいと思います。世界へ飛躍するための基礎は十分に培われているはずです。これからはそれをもとにして更に自己研鑽を重ね、博士号を取得した者として国内のみならず国際社会においても大きな役

割を果たす責任と期待をその双肩に背負うよう求められているということをしっかりと自覚して下さい。今までも折に触れお話ししてきたことですが、現在我々の住む地球が抱えている諸問題は実に深刻な状況にあります。環境問題・資源及びエネルギー問題・人口及び食糧問題などすべて地球上の生物の存続に係わる危機的課題であり、これらを解決し平和的・健康的に持続発展可能な社会を創るために尽力することこそ、本学の基本理念であると同時に、科学技術研究の道へ進んだ皆さんの夢でもあり、使命でもあるはずです。そしてその使命に真摯に向き合い取り組み続けることによって、皆さんの人生はより豊かに意義深いものになり、何ものにも替えがたい輝かしい幸福を実感することができるでしょう。かの有名な Helen Keller もこのような言葉を残しています。

“Many people have the wrong idea of what constitutes true happiness. It is not attained through self gratification, but through fidelity to a worthy purpose.”

つまり、true happiness = 真の幸福は self gratification = 自分個人の満足感からではなく、fidelity to a worthy purpose = 価値ある目標への献身から得られると言っているのです。もちろん、皆さんが新生活に期待することは様々だと思います。新しい場所で新しい人と出会い、お金を稼いでおいしいものを食べ、旅行に行き、仕事にプライベートに充実した楽しい生活を、と願うのは決して間違いではありません。楽しむのは大切なことです。しかしそれだけで本当にいいのでしょうか。この研究の道を選んだ皆さんにとって、これからの人生において真の幸福を感じることができるのは、そのような個人の生活の充足、楽しみや喜びだけでなく、この3年間で培った知を社会の益となるように還元し、先程言ったような危機的課題を解決して、持続発展可能な社会を創造し、すべての人類の未来に貢献するという実に価値のある目標に向かって忠実に献身的に邁進してこそであると思います。忙しい日々、自分の事だけで精一杯な時も、決してその大きな目標を忘れないでください。たとえその過程でどんな困難にあったとしても、皆さんはこの大学の卒業生です。粘り強く、柔軟に、果

敢に、そして先取的に挑戦を続けるという本学の精神を受けついでいるはずです。必ずあらゆる障壁を乗り越え、新たな道を開拓し、前進し続けることができると信じています。そして科学者として、イノベーションに、新しい知の創造に、美しい未来へ向けた地球規模の改革に、共に力を尽くしていきましょう。

次に皆さんにお会いする時には、さらに成長した頼もしい姿を見ることができると期待しています。そして本学も皆さんの母校として誇れる心強い基柱となるよう、より良い大学づくりに一層の努力をまいります。

皆さんの今後のご健闘・ご活躍を心よりお祈りいたしております。

平成26年3月17日

国立大学法人東京農工大学長 松永 是